

八ヶ岳登山者の意識調査

諏訪営林署・業務課森林活用係 ○金 みほ
敏博

要 旨

近年のアウトドアブームにより、八ヶ岳をはじめレク森への入り込み者の増加が予想されることから、レクリエーションの森における施設の整備などについて山小屋宿泊客に自主的に記入をいただいた69部のアンケート結果を集約し、今後のレクリエーションの森における管理運営と今後の業務の参考とするため調査を実施したものである。

はじめに

当署管内にはレクリエーションの森が約3,424haあり、これらの大部分は八ヶ岳連峰及び山麓にあり、入込み者数は年間約45万人を数えている。今後もアウトドアブーム等により、入込み者の増加が予想され、レクリエーションの森における施設の整備、ゴミ処理等環境美化・保全を一層推進していくことが重要となっている。

そこで今回、山小屋経営者の協力を頂き、八ヶ岳登山者がどのようなニーズを持っているかを把握するためアンケート調査を実施したのでその結果について発表する。

1 アンケート調査区域

八ヶ岳中信高原国定公園内の冷山・東岳国有林で山小屋を営んでいる大河原ヒュッテ、縞枯山荘、黒百合ヒュッテ、根石山荘、オーレン小屋、硫黄岳山荘の経営者に協力をいただき、平成9年7月から11月まで山小屋宿泊客を対象に実施し、アンケートの内容については国有林・営林署についての認識度、登山道等施設の整備状況、森林環境整備推進協力金についての質問を主体に16項目とした。

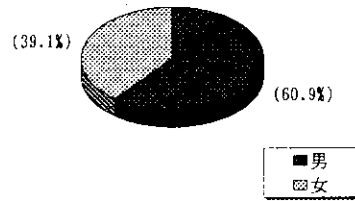
表-1 アンケート用紙

アンケートにご協力をお願いします		諏訪営林署
1 あなたの性別は (男・女)	いますか	()
2 あなたの年齢は (10代・20代・30代・40代・50代・60代・その他)		()
3 あなたの職業は (①農林業 ②自営業 ③会社員 ④公務員 ⑤主婦 ⑥その他)	12 道標、案内板の整備にはお金がかかりますが、誰が負担すべきだと思いますか	()
4 どちらからお出かけになりましたか (器)	13 ごみ処理にはお金がかかりますが、誰が負担すべきだと思いますか	()
5 当地に来られたのは何回目ですか (回)	14 当地を訪れた皆さんに自主的に募金をしていただき、レクリエーションの森における森林の整備、環境美化・保全等を行う事業がスタートしましたが、そのことを知っていますか (知っている ・ 知らない)	()
6 当地に来られた理由は (①仕事 ②山が好き ③リフレッシュ ④体力作り ⑤その他)	15 14のことについてどう思いますか (賛成 反対 分からない)	()
7 ここが国有林であることを知っていますか (知っている ・ 知らない)	16 募金箱に集まった資金は「森林環境整備推進協力金」として、拠出していただいた皆さんの意向に沿って森林環境整備に充てることになっていますが、どういった整備をして欲しい考えますか (①登山道整備 ②案内標識 ③ごみ処理 ④高山植物保護等環境保全 ⑤その他)	()
8 ここを誰が管理しているか知っていますか (①県 ②営林署 ③市町村 ④環境庁 ⑤山小屋 ⑥その他)		
9 登山道の整備はどうでしょうか (良い 普通 悪い)		
10 道標、案内板の整備はどうでしょうか (良い 普通 悪い)		
11 登山道の整備にはお金がかかりますが、誰が負担すべきと思		—— ご協力ありがとうございました

2 アンケート調査の結果

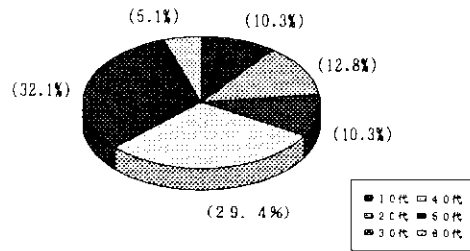
- (1) 性別については男性：60.9%、女性39.1%と男性が多い傾向にある。(図-1)

図-1 性別について



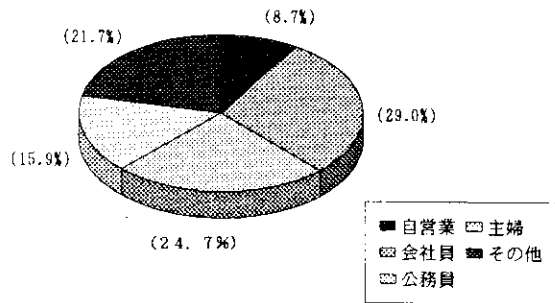
- (2) 年代をみると40・50代が61%を占め、近年の中高年登山ブームを裏付けている。(図-2)

図-2 年齢について



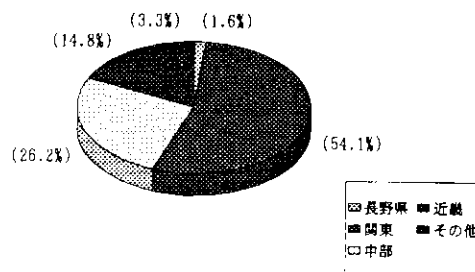
- (3) 職業については会社員・公務員が53.7%を占めている。(図-3)

図-3 職業について



- (4) 地域別には関東地方の方が54.1%を占めている。その背景としては、高速道路など道路交通網の発達により、首都圏から約2時間という立地的条件の良さがあげられる。(図-4)

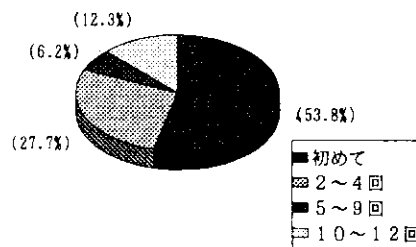
図-4 どちらから来たか



- (5) 当地への登山回数については初めてと答えた方が53.8%を占めている。

また、10回以上来ていると答えた方もいることから、山の持つ魅力の奥深さがうかがえる。(図-5)

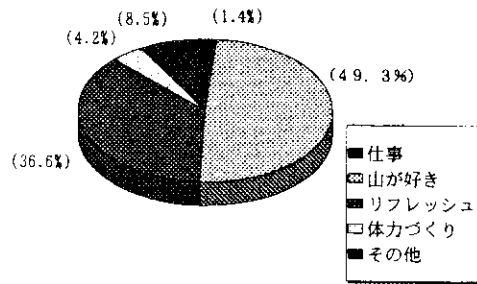
図-5 来た回数



- (6) 当地にこられた理由は「山が好き」という人が、49.3%を占めている。また、「リフレッシュ」と答えた人が36.6%いることから、森林が心の健康作りに大きな役割を果たしていることが分かる。

(図-6)

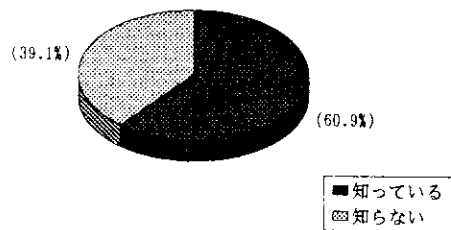
図-6 来た理由は



- (7) ここが国有林と認識しているかについては39.1%の方が知らないと答えていることから、国有林のPR不足が影響しているものと考えられる。

(図-7)

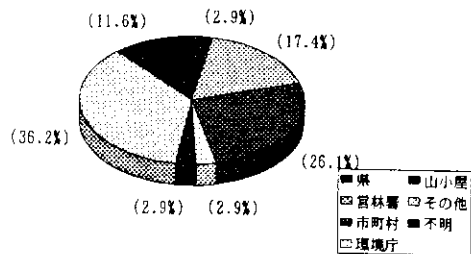
図-7 国有林であるか知っているか



- (8) ここを誰が管理しているかの質問についても営林署が17.4%と低く、ここでも国有林のPR不足が浮き彫りとなったところである。

(図-8)

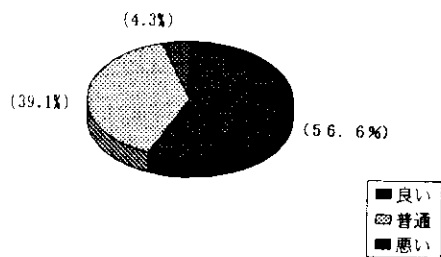
図-8 ここをだれが管理しているか



- (9) 登山道の整備についてはおおむね良好との結果であるが、4.3%の方が整備状況が悪いと指摘していることから、適切な対応が必要である。

(図-9)

図-9 登山道の整備状況

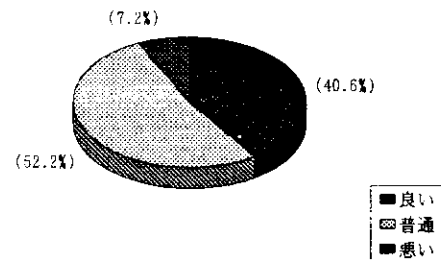


- (10) 道標・案内板の整備状況についてはおおむね良好との結果であった。

しかし、7.2%の方が整備状況が悪いと答えていることから、遭難など事故防止の観点からもこれらの原因を探り整備を行うことが必要である。

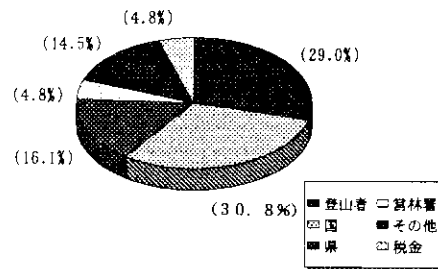
(図-10)

図-10 道標、案内板の整備状況



- (11) 登山道の整備については登山者自身が負担すべきとの回答が29%あり、この結果からこれらの思想も少しずつ定着しつつあることがうかがえる。(図-11)

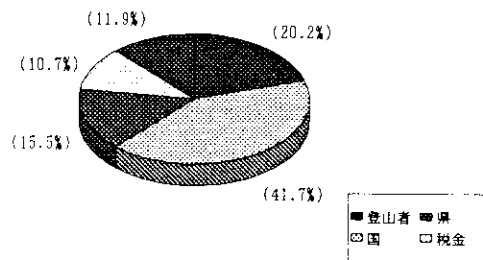
図-11 登山道整備の費用負担



- (12) 道標、案内板の場合は前項目に比べると登山者負担が8.8%減少し、道標・案内板の整備は国や県が実施すべきであるとの登山者の意識が表れている。

(図-12)

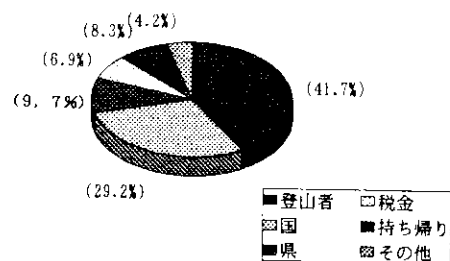
図-12 道標、案内板の費用負担



- (13) ゴミ処理については登山者負担が41.7%、持ち帰りが8.3%と半数を占め、登山者の負担、つまり受益者負担が半数を占めている。

(図-13)

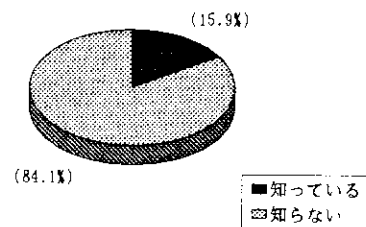
図-13 ごみ処理の費用負担



- (14) 当地を訪れた皆さんに自主的に募金していただき、レクリエーションの森における森林整備、環境美化・保全等を行う事業がスタートしましたが、知っていますかの質問については知らないとの回答が84.1%で制度の趣旨については、ほとんど理解されていない実態にある。

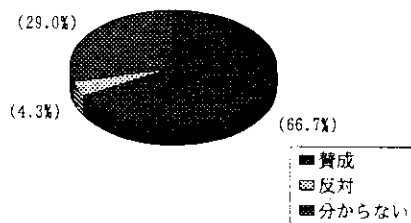
(図-14)

図-14 森林環境整備推進協力金についての認識度



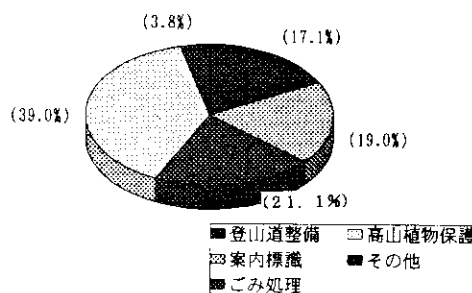
- (15) 協力金制度の趣旨については賛成するとの回答が66.7%とあり理解を示す登山者も見られる。(図-15)

図-15 上記のことについてどう思いますか



- (16) 「森林環境整備推進協力金」の使途については、高山植物等環境保全が39%と1番多く、ゴミ処理や案内標識、登山道の整備という意見も出ている。(図-16)

図-16 森林環境整備推進協力金の使途について



3 今後の取組

(1) 営林署としてのPR活動

(ア) 高山植物などの巡視を通じて登山者とのふれあいを積極的に行うなどイメージアップに努める

(イ) 山小屋、関係市町村と連携をはかり看板などの設置、パンフレットの作成に努める。

(2) 「レクリエーションの森」における森林環境整備事業の積極的推進

(ア) 森林環境整備推進協力金制度を理解していただくため看板などの設置をするなどのPRに努める。

(イ) 現在の実施方式である募金箱方式から山小屋経営者の理解を得るなかで、施設の利用料金との組み合わせ方式とすることを検討する。

(3) 協力金の使途について、協議会などにアドバイスをする。

おわりに

森林に対する国民のニーズは年々多様化しており、国有林に関する期待は年々高まりつつある。

特に、レクリエーションの森については一般登山者が利用しやすい地域が多く、施設の整備については重要な課題となっている。営林署として、今後のレク森の管理運営に当たっては、今回のアンケート調査で得た登山者の意識調査を参考とするとともに、関係機関、山小屋関係者等と連携を図りながら広く国民の皆さんに利用し、親しんでいただけるよう取組んでいきたいと考えている。